

外部第三者評価結果報告書

1 外部第三者評価の実施体制

(1) 事務局の構成

区 分	所 属	職 名	氏 名
事務局長	営農支援課	課 長 支 援 監 班 長 主 任 技 師	能登 拓 宮城 早苗 渡慶次 努 具志 明

(2) 外部第三者委員会の構成

区 分	所 属	職 名	氏 名
学識経験者 マスコミ代表 消費者代表 先進的な農業者 若手・女性農業者 農業関係団体 民間企業	琉球大学農学部 フリージャーナリスト 野菜ソムリエ 中部農業士会 中部地区農業青年クラブ JAおきなわ中部地区 営農振興センター 琉球肥料株式会社	教授 － 上級プロ 会長 会長 センター長 取締役製造部長	内藤 重之 崎山 律子 徳元 佳代子 識名 共史 新里 えり子 町田 隆 金城 保

2 外部第三者評価の実施実績

(1) 農業改良普及センター（課）
中部農業改良普及センター

(2) 外部評価の手順

時 期	実 施 事 項	場 所
令和5年 4月28日	評価実施センター選定（北部）	県庁9階ワーキングチーム会議室
9月13日	中部農業改良普及センターへの説明	農業技術情報センター
9月28日 10月3日 10月6日	第三者外部評価委員への事前説明 第三者外部評価委員への事前説明 第三者外部評価委員への事前説明	農業技術情報センター 中部農業改良普及センター会議室 農業技術情報センター
10月19日 11月10日 11月～2月	現地調査（中部） 書面調査 評価結果取りまとめ	中部農業改良普及センター等 農業技術情報センター 評価委員

(3) 外部第三者委員会の具体的な進め方と内容等

中部農林水産振興センター農業改良普及課

時 間	進め方と内容等	説明資料名	説明者
	10月19日 (木)		
9:30	現地調査 1. 青年農業士の新規就農者研修受入事例について 2. 葉たばこからの転作優良事例 (さとうきび)	評価委員会資料	農業改良普及課
13:40	委員の紹介		営農支援課
13:45	普及活動の概要		農業改良普及課
14:05	普及活動事例発表 1. 「北中城村におけるパッションフルーツ産地育成」への取組支援 2. 中部地区の果樹産地育成の取り組み		農業改良普及課
15:00	委員聞き取り		評価委員
15:40	委員評価内容検討		評価委員
16:20	委員評価・感想		評価委員会会長
16:30	閉会		

(4) 外部第三者評価委員会における評価された事項、改善すべき点として指摘された事項

中部農林水産振興センター農業改良普及課

項目	評価された事項	改善すべき点として指摘された事項
<p>I 普及指導計画及び課題設定について</p>	<p>○普及指導計画及び課題設定については国や県の計画等との整合性がとれている。管内の農業関係者で構成される普及推進協議会で普及指導計画の検討や産地協議会で意見交換を図るなど関係機関・団体とも十分に調整が図られている。</p> <p>○地域農業の状況や前年度の活動評価を踏まえて普及指導計画の策定や課題設定が行われているとともに、課題ごとに具体的な成果目標が設定されている。</p> <p>○4市3町村とそれぞれ地域性独自性の強い中部地域で継続性をもち計画性を発揮しながら展開している。</p> <p>○農業者にアンケートを行い課題を明確にし解決のための支援を具体的にを行っている。</p> <p>○前年度の評価を活かし目標が具体的である。</p> <p>○毎月JAとの定例会議を行うなど、情報の共有するようにしている。</p> <p>○計画も地域や農家の課題、ニーズを踏まえて取り組まれている。</p> <p>○目標も達成に向けて動いている。</p>	<p>○（成果目標） 地域の平均単収を基準として成果目標が設定されているとのことであるが、担い手の高齢化が進む中で、地域の平均単収が低下している品目もみられることから、農業で生計を立てることができるよう経営を考慮した目標単収を設定すべきではないか。 【改善策】 「新・沖縄農林水産業振興計画」や地域の実状を踏まえ、「経営経済的評価に基づいた目標設定」について関係機関と共に検討して参ります。</p> <p>○（相談窓口） マニュアル通りにいかない農業に、技術の指導のみならず、沖縄（地域状況）に適した品種や研究情報の収集・広報が必要。まだ支援を受けていない農業者が気軽に相談できる雰囲気（窓口）と人員が必要。 【改善策】 会議や講習会を行う際にもアンケートを取り、自らの活動にフィードバックするよう心がけておりますが、情報収集の方法や窓口の周知方法についてもより工夫したいと存じます。</p> <p>○（市町村との連携） 市町村の農林水産の部署と農業委員会との連携は少し弱い。改善の為には市町村とも定期的な情報共有が必要だが、人員も限られており人員増加が求められる。 【改善策】 担い手協議会や産地協議会において関係機関連携のもと普及活動に取り組んでおり、今後も連携強化に取り組んで参ります。人員確保については、引き続き主務課、部局と連携し、取り組んで参ります。</p> <p>○（目標が低い） 農家の反収目標が経営的に考えると低い、目標は高く設定して達成に向けて取り組む必要があると考える。 【改善策】 農家の単収目標については、「経営経済的評価に基づいた目標設定」について関係機関と共に検討して参ります。</p> <p>○（人員） 少ないリソース（人員や費用）で波及効果を狙う「重</p>

<p>○普及指導計画及び課題計画及び 設定については県の計画、課題設定等との整合性が取れており、市町県、JA、農業委員会等の関係機関、協議会、団体との調整もしっかりと取れている。課題や計画も各機関と共有できており実行されている。</p> <p>○新規就農志向者、新規就農者、青年農業者の育成、農業士の認定なども各市村と情報共有し連携が取れている。</p> <p>○パッションフルーツの産地育成や、美らマンゴーに向けての品質向上へのポイントを絞った戦略など、目の付け所よく、資材の工夫もなかなかのひらめきで行われ、費用対効果も明かで素晴らしい。</p> <p>○国、県の方針や各市町村の計画の整合性が取れている。また、関係機関・団体と共有が十分に行われている。</p> <p>○地区・地域の状況にあった指導計画及び課題設定がされている。</p>	<p>点化」の具体的な取組みが切実だが、パッションフルーツの産地育成や、戦略品目の果樹の品目数全てに対しての担当者1名という普及活動は無理があるようにも思える。産地育成をするにもマンゴーの品質向上でも一朝一夕&小勢では厳しく、取り組みを効果的にするためにも増員をすべきである。</p> <p>【改善策】 当センターは限られた人員ではありますが、課題の重点化を図り、プロジェクトチーム活動を展開します。また、果樹担当農業革新専門員、JA、市町村担当や各産地リーダーと連携して効果的な産地支援を行って参ります。人員確保については、引き続き主務課、部局と連携し、取り組んで参ります。</p> <p>○（課題設定） 近年の農業資材高騰等も踏まえた中で、生産農家の所得向上を図るため、目標単収のアップに向けた課題設定の検討</p> <p>【改善策】 産地協議会や各部会と連携して生産農家の所得向上を図り、目標単収をいかに増やしていくか、さらに検討を重ね課題解決を図って参ります。</p>
---	--

項目	評価された事項	問題点として指摘された事項（改善策も含む）
II 組織的、継続的な活動について	<p>○調査研究や各種研修を実施するなど資質向上に向けた取組がなされている。</p> <p>○プロジェクトチームの設置やシートの作成などにより組織的かつ継続的</p>	<p>○（人員） 多品目の果樹が生産されているにもかかわらず、果樹担当が1名のみであるなど、全体的に普及指導員の人員が不足している。</p> <p>【改善策】 果樹担当革新支援専門員、JA及び市町村の営農指導員及び各産地の農業者リーダーと連携を深めることで、効果的な課題解決を図って参ります。また人員確保については、引き続き主務課、部局と連携し、</p>

<p>な活動方法が構築されている。</p>	<p>取り組んで参ります。</p>
<p>○指導農業士を品評会の審査員とするなど有識者が有効に活用されている。</p>	<p>○（情報発信） 最新の情報が普及日より、webサイト、LINE、SNSなどで発信されているが、過去の情報を探するのが困難であるとの意見が聞かれたことから、県内または管内の農業者等が検索できるデータベースの構築を検討してはどうか(経営指標、栽培指針などを含めて)。</p>
<p>○農業改良普及推進協議会-令和5年度は書面開催となっているが協議会の存在意義は大きい。</p>	<p>【改善策】 普及情報については、webサイト、LINE、SNS等で発信していますが、データベースの構築等、他の情報発信の方法については主務課と検討を重ねて参ります。</p>
<p>○産地リーダー育成のための研修会・検討会、意見交換会、先進地視察など多く行っている。</p>	<p>○（関係機関との連携） 毎年実施する農業改良普及推進会議の意義は大。普及企画班／農業技術班による現状把握と各関係機関との意思交換が具体的で共有化が進められている。将来に向けて沖縄農業をリードしていけるような気概をもち、中核拠点となってもらいたい。</p>
<p>○指導員はよく勉強し、資質向上に取り組んでいる。</p>	<p>【改善策】 各関係機関及び農業者組織ともより連携し、農業の発展に向けた議論を深めていけるよう取り組んで参ります。</p>
<p>○組織的にも担当ごとに地域、農家と連携を取り活動している。</p>	<p>○（加工技術支援）</p>
<p>○情報の発信も定期的な広報誌に加え、青年クラブや農業士会などSNSによる情報共有にも取り組んでいる。</p>	<p>農業大学校、JA、農研センター、青年クラブ、指導士などからの栽培技術の知見も活用しているが、加工については衛生や一次加工だけでなく、専門家による踏み込んだ加工技術の支援が必要。</p>
<p>○資質向上のための研修実施は定期的に適切に取り組まれている。</p>	<p>【改善策】 農産物加工についての専門家との連携は加工技術向上のためには不可欠であり、現在、県流通・加工推進課の事業等を通じて起業者に対する助言を頂いておりますが、より多くの専門家と連携し、加工技術の向上に向けて支援します。</p>
<p>○情報の管理も、持ち出し時に上司の承認が必要など適切に管理されている。</p>	<p>○（人員不足） 組織として継続的に地域、農家の意見を取り入れながら資質の向上を目指すときに、人員不足は否めず、担当も掛け持ちするなどしており要望に対して100%では応えられていない。普及員の人数を増やし、ニーズ要望に応えられるよう取り組んでほしい。</p>
<p>○農業士会等と連携した新規就農者育成。</p>	<p>【改善策】 現状では限られた人数ではありますが、農業者の継続的な支援を行うため、普及員の資質向上を図り、プロジェクトチーム活動など所内連携を強化しながら、地域ニーズに応えられるよう取り組んで参ります。人員確保の必要性を訴えつつ主務課、部局と連携し、適切な人事配置に向けて取り組んでいきます。</p>
<p>○課題解決を図るため、連携した対応がなされている。</p>	

		<p>○（人員） 中部地区は農家戸数も多く、地域も広く、1人1担当で短い期間での人事異動だと組織的、継続的な活動に何度も労力を必要とし、そればかりか、多様化する農業経営や情勢への対応は厳しく、組織的、継続的な活動を行うためには増員を行っていただきたい。</p> <p>【改善策】 多様化する地域ニーズに対応するため普及指導員の資質向上に努め、業務引継を確実にし継続的な支援を行って参ります。また、プロジェクトチームによるより効果的な支援活動を展開します。人員確保については、引き続き主務課、部局と連携し取り組んで参ります。</p> <p>○（情報発信） 紙媒体での情報誌で組織や活動状況が発信されており、農業関係の身近な媒体でとてもお気に入りの一つだが、そろそろ他の手法（SNSなど）でも積極的に発信を行ってほしい。長年の蓄積された技術に関して電子化し、農業者や関係機関がいつでも見られるようにしてほしい。</p> <p>【改善策】 普及情報については、webサイト、LINE、SNS等で発信していますが、データベースの構築等、他の情報発信の方法については主務課と検討を重ねて参ります。</p>
--	--	---

項目	評価された事項	問題点として指摘された事項（改善策も含む）
<p>Ⅲ 普及活動成果及び評価手法について （活動成果について）</p>	<p>○計画段階から農業者等と連携して実証圃が設置され、広く活用されている。</p> <p>○班会議等を実施することによって適切に進行管理が行われているとともに、中間評価および年度末評価、「普及のあゆみ」の発行などによって内部評価も的確に行われている。</p> <p>○令和3年度はコロナ禍の影響がみられるが、概ね成果目標は達成されている。</p>	<p>○（意識の共有） 担い手の育成、確保のために、農業の魅力が伝わるような取り組み（イベント、産地交流・先進地視察・会食）などを通し、普及員との意識の共有が必要。</p> <p>【改善策】 現在花と食のフェスティバルや市町村産業まつり、JA関連のイベント等に参加しております。また重点課題の品目を中心に優良農家は場での現地検討や先進地視察を通じて産地交流等にも取り組んでおり、今後も引き続き継続して参ります。</p> <p>○（成果目標設定の低さ） 普及計画は順調に達成されており、その後も達成が見込まれるが、目標の設定が少し低く、達成する為の数字に思える。地域、農家の課題を解決するための目標を設定し、それに向けて取り組む必要がある。</p> <p>【改善策】 普及計画の目標は5カ年毎に作成する基本計画の数字</p>

<p>○北中城村の「パッションフルーツ産地育成」への取組→事業参入→課題→産地リーダー育成→R4栽培→R5収穫に活動の実りがある。</p> <p>○実証圃では課題解決に努め、反収アップ、新規参入者が生まれ環境にも配慮した支援になった。沖縄ブランドやリーダー育成が適切。</p> <p>○農家との信頼関係は築かれている。</p> <p>○実証圃も有効的に活用されており、農家、地域の課題改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>○普及計画も成果目標も達成されている。</p> <p>○計画段階から生産者や関係団体と連携して実証圃が設置され、データ分析やその活用も適切に行われている。</p> <p>○実証圃・展示圃での実証は、農業者にとっても技術の向上や問題解決にとっても有用で有益な取り組みをしており、とても高く評価できる。</p> <p>○PDCAによる検討がなされている。</p>	<p>値を基準としておりますが、目標設定については「経営経済的評価に基づいた目標設定」について関係機関と共に検討して参ります。</p> <p>○（実証ほ、展示ほ） 実証圃・展示圃での実証は、農業者にとっても技術の向上や問題解決にとっても有用で有益な取り組みをしており、とても高く評価できるが、その一方で、もっと多くの展示圃や、実証圃を設置し取り組んでほしい。加えて、同じ課題に対してのアプローチを変えたり、違う資材を使ったり、と角度を変えた取り組みを行うことによって、より有益で効果的な成果が出るよう、予算をもっと確保し、農家の将来のために積極的に行っていただけるよう強く願います。</p> <p>【改善策】 実証ほの課題設定に当たっては、地域の課題や農業者の要望を踏まえ、農業者の持つ技術力や経営的な評価を含め、県の農業革新支援専門員、農業研究センター研究員等と連携、相談しながら地域課題解決の糸口となるよう努めていきます。実施に当たっては、農業者のニーズに応えられるよう詳細な情報収集と農業者とのより綿密な意見交換を行う必要があります。関係者と連携し組織的に取り組んで参ります。</p> <p>○（実証展示ほ） 実証展示圃設置にあたっては、幅広い意見や課題を収集するため、関連する機関を構成員として検討してもらいたい。</p> <p>【改善策】 展示ほの設置にあたっては産地協議会を通じて検討を重ねて参ります。</p>
---	---

項 目	委員意見 (改善策も含む)
(普及活動について)	○経費高騰や関税削減などによって農業を取り巻く環境は厳しさを増しており、農業担い手の不足と高齢化が進展していることから、新規就農者の確保と定着が図られなければ、地域農業の維持・存続が危ぶまれる状況となっている。とりわけ沖縄県では新規就農者に占める新規参入者の割合が高く、農家内での技術や経営のノウハウなどの継承が困難であることから、普及活動

	<p>の役割はより重要であると考えられる。なかでも中部農業改良普及センター管内では都市化・混住化が進んでおり、農業経営の形態や生産品目も多様化していることから、普及指導員の増員と適切な配置が不可欠であると考えられる。</p> <p>【改善策】 新規就農者の確保と育成は普及センターの重要課題の1つであり、新規就農者を確保することと、地域を担う農業者の育成には農業士の協力を得ながら取り組んで参ります。人員確保については、引き続き主務課、部局と連携し取り組んで参ります。</p>
<p>(活動成果について)</p>	<p>○令和3年度についてはコロナ禍の影響により対面での講習会が実施できていないなど一部で成果目標を達成できていない項目もみられたが、令和4年度にはSNSやLINE、Zoomなどを有効に活用しながら普及活動が行われており、多くの項目で目標が達成できている点は大いに評価できる。今年度はほぼ対面に戻したとのことであるが、今後ともオンラインを有効活用しながら、効果的な普及活動を展開していただきたい。</p> <p>【改善策】 オンラインを活用して様々な研修会や講習会を実施しており、さらに勉強を重ね、より効率的に広範囲に情報提供できるよう努めます。</p>
<p>(普及計画書について)</p>	<p>○中部農業改良普及センターは農業の最前線に立ちすぐれた先輩たちから受け継いだ情熱が継承されている拠点だと評価している。だからこそ「今後」の課題にも前向きに取り組んで頂きたい。宜野湾大山の「ターンム」一消費者が生命の水に危機感をもち注視している。県民の課題として、農業・基地に正面から取組に公用して頂きたい。</p> <p>【改善策】 ターンム(タイモ)については、環境保全型農業の推進や担い手育成にも取り組んでいるところですが、市町村計画も確認しながら取組について、検討いたします。</p>
<p>(統計数値について)</p>	<p>○令和3・4年と農家戸数・農家就業人口は販売農家1,038と記されている。しかし令和5年度は総農家数1,657、販売農家数650とされている。この数値の表記では過去との比較など理解しにくい。改善を求めたい。</p> <p>【改善策】 数値の表記については農林業センサスの引用となっており、この度センサスの表記方法の変更に伴い、このような表記となっております。</p>
<p>(人員不足)</p>	<p>○普及員の人員不足は否めず、なかなか地域や農家のニーズや要望に応えるのが難しく、普及員の活動も限定されている。昔は農家が情報を得るなら普及所であったが、今はネット等情報を取る場所が多様化しており、新規や中堅農家の普及所利用が減っていると感じる。ただ、実際の現場での課題や対応方法等は多くの現場を見てきた普及員の知識、経験は役立つものが多く、それを農家が有効的に活用して農家の技術と経営力の底上げ出来るように、普及員の人数を1人でも増やして、農家、普及員共に継続的に仕事が続けられるよう取り組んでほしい。</p> <p>【改善策】 人員確保については、引き続き主務課、部局と連携し取り組んで参ります。また、地域農業者のニーズに応えるため、所内研修や課題解決研修、現場経験の積み重ねにより普及指導員の技術力、経営力の向上の底上げを図って参ります。</p>

(指標等データの積み上げ)	<p>○県の品目別の経営指標など、経営計画を立てるときや新規就農者からベテラン農家まで参考になるデータは更新年度ごとに分けて希望した時に見れるよう、整理してほしい。</p> <p>【改善策】 データ活用、提供方法については、県主務課や関係機関を含め、検討して参ります。</p>
(増員をされて下さい)	<p>○中部普及センターの管轄範囲は面積も広く、品目も多いにも関わらず、1担当1人(果樹という括りで1人のような体制)というのは、農業が取り巻く環境が多様化する中、それに対応できるのか、普及員の技術や資質が向上できるのか心配です。このままでは農家も地域も時代の波に取り残されてしまいます。増員をお願いします。</p> <p>【改善策】 情報の効率的な収集、整理、共有を図ると同時に現場経験を多く積むことで1人1人の資質向上を図り、様々な農業の多様化に対処できるよう引き続き取り組んで参ります。人員確保については、引き続き主務課、部局と連携し取り組んで参ります。</p>
(実証圃などの運営を多面的にできるような予算の確保)	<p>○実証圃・展示圃での実証は、農業者にとっても技術の向上や問題解決にとっても有用で有益な取り組みをしており、とても高く評価できるが、その一方で、もっと多くの展示圃や、実証圃を設置し取り組んでほしい。加えて、同じ課題に対してのアプローチを変えたり、違う資材を使ったり、と角度を変えた取り組みを行うことによって、より有益で効果的な成果が出るよう、予算をもっと確保し、農家の将来のために積極的に行っていただくことを願っています。</p> <p>【改善策】 展示ほの設置に当たっては地域ニーズの要望を汲み取り、かつ地域農業の発展に資する課題設定を心がけており、調査研究等を活用して普及に努めて参ります。</p>
(人員及び関係機関との連携について)	<p>○農業のニーズが多様化する中、限られた人員体制で取り組んでいることに対し感謝します。近年、農業を取り巻く環境は農業関連資材の高騰が生産者の営農持続に支障をきたしております。また、新規参入のハードル高さなど、本県の農業持続・振興が厳しい状況にあるため、人員増の検討とより一層関係機関との情報共有や連携強化をお願いしたい。</p> <p>【改善策】 未利用資源や新しい資材の活用に取り組んでおり、資材高騰にも対応できるよう、農業者や関係機関との情報共有とさらなる連携強化に取り組めます。</p>
(計画が体的な課題解決になっているか)	<p>○普及指導基本計画書の課題別普及活動の目標設定(到達目標)について、産地全体の出荷量の記載はあるが、生産農家の経営改善に関わる目標設定となる反収、品質等の数値目標が作物によって記載の有無がある。また、その反収等の設定が目標となりうるものかどうかの検証が必要と考える。</p> <p>【改善策】 「新・沖縄農林水産業振興計画」や地域の実状を踏まえ、「経営経済的評価に基づいた目標設定」について関係機関と共に検討して参ります。また5カ年毎に作成する基本計画や単年度毎に作成する普及計画について、単収、品質等の数値目標等の設定について検討して参ります。</p>
(農業者の意向や)	<p>○中部地区には、宜野湾大山のタイモやうるま市与那城のい草など他地区にはない特色ある作物があり、沖縄の大切なブランドであります。水田作でマ</p>

<p>地域状況の変化等を取り入れたものになっているか)</p>	<p>イナーな作物でありますので肥培管理、病虫害防除等に課題があると考えます。小規模産地ではありますが、継続的な技術サポートを要望します。</p> <p>【改善策】 環境保全型農業推進や施肥改善等を実施しており、今後も要望に対応して参ります。</p>
<p>(普及活動について)</p>	<p>○現状の人員体制のなかで様々な課題に取り組んでいることを高く評価します。多岐にわたる課題に今後も対処するためにも人員の増加は望めないかもしれませんが、普及指導員の人員確保と適切な配置について強く要望します。</p> <p>【改善策】 当センターの普及活動について評価頂き、誠に有り難うございます。人員確保については、引き続き主務課、部局と連携し取り組んで参ります。</p>
<p>(情報の管理・発信体制は適切であるか)</p>	<p>○普及センター（他地区の成果、また農業研究センターの成果）での過去の展示圃や試験結果で得られた成果は、生産農家には非常に有益なデータであります。県外産地との競合のなかで情報管理の課題はあるかと考えますが、紙媒体での資料閲覧または配布だけではなく、県内の生産者がインターネット上で簡易に閲覧できるような仕組みの構築を要望します。特に新規就農や若年生産者からのニーズは高いと考えます。</p> <p>【改善策】 公表、公開可能な試験研究成果の提供方法については県主務課、関係機関を含め検討して参ります。</p>

3 外部第三者評価の説明・提出資料名一覧

①事前説明会資料

<p>沖縄県普及事業外部第三者評価実施要領 沖縄県普及事業外部第三者評価委員会設置要領 普及事業の概要と普及活動評価の仕組みについて 平成31年度普及事業外部第三者評価実施結果報告書（中部） 農業改良普及課事前提出資料 （普及指導基本計画書（R2～R9）、普及活動計画書（R3～R5年）・普及活動実績（R3～R4） ・北部地区農業改良普及推進協議会検討経過報告書（R3～R5）</p>
--

②中部農業改良普及センター

<p>委員会資料</p>

4 その他特記事項

<p>特になし</p>
